

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜聾学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年1月25日(木) 13:30~15:30
- 3 開催場所 岐阜聾学校会議室
- 4 参加者
- | | | |
|-----|---------|----------------------------------|
| 会長 | 村瀬 忍 | 岐阜大学 教授 |
| 副会長 | 山村 基翔 | 岐阜県聴覚障害者協会 理事 |
| 委員 | 岩田 順治 | 岐阜市社会福祉協議会 加納東支部 主事 |
| | 尾木 大 | 株式会社岐阜セラック製造所 取締役社長
(欠席：書面参加) |
| | 棚原 美歌 | 加納東地区民生委員児童委員協議会 主任児童委員 |
| | 広瀬みゆき | 加納幼稚園 園長 |
| | 川上 昭雄 | 本校同窓会長 |
| | 岡庭 味里 | 本校PTA会長 (欠席：書面参加) |
| 学校側 | 長瀬さゆり | 校長 |
| | 立川 茂 | 教頭 |
| | 駒月 良美 | 事務部長 |
| | 辻角 真弓 | 幼稚部主事 |
| | 松本 深香 | 小学部主事 |
| | 今枝みどり | 中学部主事 |
| | 三橋 正康 | 高等部主事 |
| | 樋口さおり | 教務主任 |
| | ※西脇 靖和 | 生徒指導部長 |
| | ※戸田 百香 | 生徒会担当職員 |
| | ※生徒会会長 | |
| | ※生徒会副会長 | (※職員並びに生徒は、交流のみ参加) |

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 校長挨拶
- (2) 生徒会(高等部)との交流
- (3) 令和5年度卒業生の進路状況
- (4) 各部より重点的に取組んだ内容
- (5) 令和5年度自己評価及び学校関係者評価と次年度に向けて(令和6年度の教育活動)

6 委員からの提言

- (1) 生徒会(高等部)との交流
 - ・生徒会会長、副会長より生徒会取組の発表

別紙様式3

- 意見1： 第2回の運営協議会において生徒会の要望の中身について質問したことがある。今回の発表でその中身を聞くことができてよかった。交渉材料を付けて出していることがよく、こうした力は社会に出た時に役立つ。要望を出せばすべて叶うわけではないが、在籍中は思いを伝えていくとよい。今後もやってほしい。
- 意見2： スローガンや要望など活動内容を自分たちで考えていることを知り、自分たちで学校を良くしていこうとするのは素敵な取組である。加納幼稚園で交流している幼稚部の子たちが、将来こんな素敵な高校生になると思うとワクワクする。
- 意見3： 岐鬮祭に初めて参加したが、責任をもって取り組んでいて素晴らしいし、皆にその機会があってよい。こうした経験が人に頼らず努力することに繋がる。
- 意見4： 生徒会が出した要望はいくつか叶ったのか。
⇒スマートフォンの管理については、高等部で話し合い、ルールを作り、教職員と検討する予定。その他は、「検討する」と校長から返事をもらっている。
- 意見5： スマートフォンについて、自分の娘が高校生だった時も学校で回収されていたが、災害時にどんな方法で返却されるのか疑問だった。いつ災害が起こるかわからないし、自分の身は自分で守ることが大事になる。
- 意見6： 鬮学校の生徒数は少ないが、幼稚部から高等部までであることがこの学校の特色である。その特色を生かし「皆でつながり1つの学校にしたい」と自分たちで考えているのはとてもよい。岐鬮祭で高等部の劇を下級生が喜んで観ている姿を見て、楽しくなった。「こんなふうになりたい」と思ったであろう。下級生にこんな姿を見せようと思い取り組んだことはあるか。
⇒自分は幼稚部から高等部までずっと鬮学校にいる。小さい頃、先輩が挨拶してくれたり、手を振ってくれたりして、積極的に関わってくれたことが印象に残っている。笑顔で挨拶できる人になりたい。気軽にみんなと関わられる学校にしたい。
⇒今回の委員の皆さんのアドバイスやご意見を今後に生かしていきたい。
⇒また、来年度の生徒会の役員に伝え、よりよい学校にしていってほしい。

(2) 令和5年度卒業生の進路状況

- ・状況報告
- ・進路だよりで情報を提供している。

(3) 各部より重点的に取り組んだ内容の報告

(4) 令和5年度自己評価及び学校関係者評価と次年度に向けて（令和6年度の教育活動）

- 意見7： 先生方は、校庭の石碑についての由来や歴史を知っておくべきである。岐阜鬮学校の歴史を知る活動を教育の中にとり入れるとよい。
- 意見8： 高等部の5つの系列には、何人の生徒が所属しているか。
⇒高等部主事より内訳について説明。
- 意見9： 聴覚障がい専門性の向上とあるが、どういったことか。
⇒多岐にわたってあるが、基本としては言語力の獲得につながる指導。
「聞こえにくいとはどのようなことか、そのために必要な支援は何か」などは最低限理解しておくべきことと思っている。毎年、学習会・研修を通じて学び、学んだことを日々の実践に生かせるように取り組んでいる。
- 意見10： 先生方の人事異動もあるため、短期の勤務経験での専門性の獲得は難しそうである。幼稚部の交流現場で、子どもたちは互いに言葉でのやり取りをしなくても交流している。子どもたちへの教員側の積極的な関わりが必要である。
- 意見11： 学校職員は地域に開かれた学校を目指して取り組んでいるが、地域側の関心が薄い。地域側にも課題はあるが、情報発信の工夫などの取り組みを継続してほしい。
- 意見12： 鬮学校が地域になじんでいないと感じる。地域少年補導委員会では小中の教員も参加している。鬮学校も参加すると連携ができるのではないか。また、地域の行事のチラシを配付しているが鬮学校に地元の子がいないため参加がない。
- 意見13： 先生方の研修に、手話奉仕員養成講座があるので活用してほしい。
- 意見14： 鬮学校がどんなところかわからない人がたくさんいる。PRが大切だが難しい。

別紙様式3

意見15： 授業参観をしたとき、聞こえ方や発達が様々な子どもたちへの聾教育がどうあるべきか考えさせられた。家庭の事情なども含め、幅広い支援が必要である。また、保護者との連携も大切。保護者の聴覚障がいに対する理解が深まれば聾学校の価値(専門的な対応)を見出し、それが外に向けての発信につながる。保護者も一緒になって、企画、運営して活動することを盛り込むとよい。

意見16： 様々な災害が起きている中で、聾学校の防災対策はどのように対応していますか。
⇒内容を工夫している。今年度は垂直避難訓練を実施した。保護者を巻き込んだ一緒に行う訓練も必要になってくる。

意見17： 岐聾祭を参観し、生徒皆さんが自らセリフ等を考えた工夫があちこちに見られ、非常に楽しく過ごすことができた。このようなお祭り等も含めて、他県の聾学校との交流は普段からあるのか。もしまだであれば教育や安全への取り組みなど、お互いに取り入れるとよいのではないか。

⇒東海地区聾学校や、近隣小学校、高等学校等と交流を行っている。交流活動の内容も今後工夫していきたい。

7 会議のまとめ

- ・生徒会との交流を通して、生徒自身が自分たちの言葉で委員の方への発信ができ、生徒にとっても貴重な機会となった。
- ・委員から学校の活動や、次年度に向けての方策について意見を受け、よりよい学校づくりに向けて協議することができた。
- ・次年度の取組については誰もがわかりやすい内容となるよう具体的に示すことで了承を得た。
- ・今後も様々な工夫を行い、教育活動を推進していく必要を感じ、次年度も外部委員の意見を反映して、学校全体の運営を進めていく。